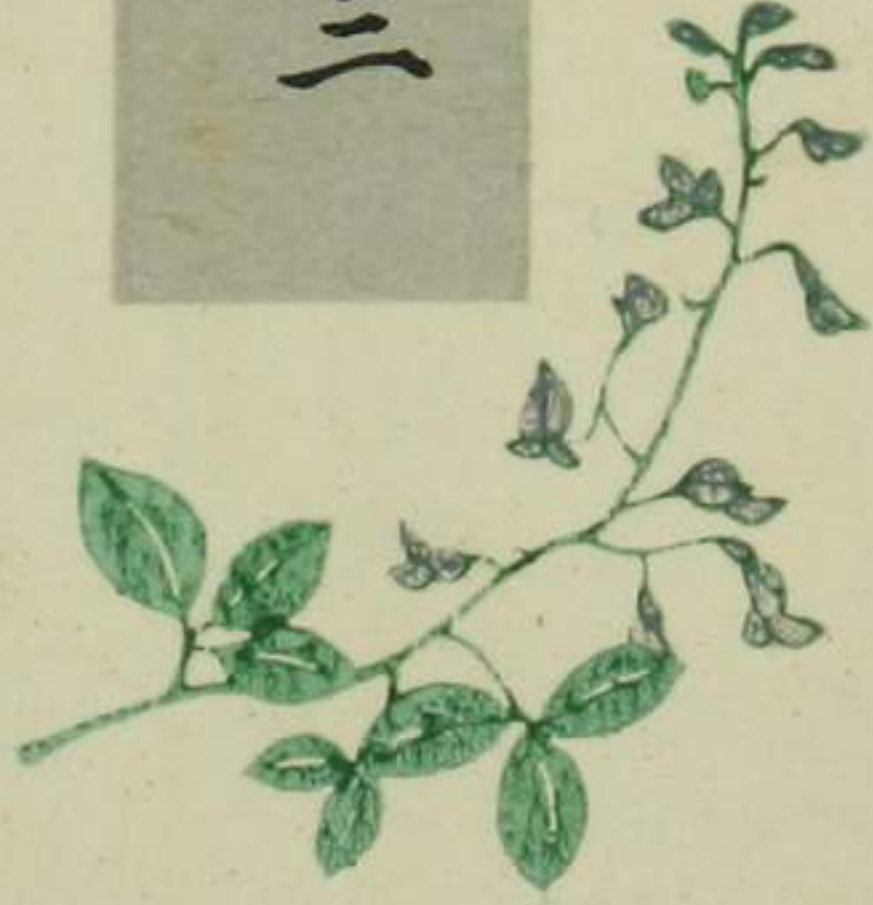




八江萩名所園画
三



ル 4
3643
3



門 几 4
號 3643
卷 3

八江款名所圖畫參之卷

目錄夏之部下

和泉寺

尚齋先生墳墓

疫神社

松雲院

柳江晚鐘

陣ヶ原

松雲院圖

大谷觀音橋之圖

國守

南明寺

全花見之畵

同觀音堂之畵

太甲庵

景真寺

柳瀨 六本松

上津江晴嵐

同古園

同新園

龍藏寺

同畵

中津江夜雨

同古園

同新畵

與收權現社

通心寺

上野荒神社

圓福院

東光寺

同園

鉢多院

泰法院

江火色屋藏版

昭和廿三年
三月二十日
購示

明光寺 人丸社 同畠 唐人山 陶器司
 大釜埵 御嶽權現社
 以上參拾六條

八江菽名所圖畫參之卷

木梨恒充 著述

夏之部下

山縣篤藏 補正

和泉寺 大谷まで疫神社のうしろ山の片へは有り一向

宗清光寺の庵室まで本尊何れも如来なり當所ハむろ

和泉式部及び任さうり舊跡まで和泉寺村といつと里老

のいひ傳ふる所なり 當所を和泉式部の古跡といへる証を尼ナ
 烏田氏説ハ内藤和泉と云ふ人住居一誤

えす按ふは澤式部古墓あり是よりひひあやまりさるむれちるへ

馬鬣封 尚齋小倉先生の墓あり
 碣文左よあらす

長肅小倉先生墓碣
 先生諱貞字實操小倉氏号尚齋小字万太郎長州都岐人泰嚴侯侍医宗

爾之季子也其先出于江之源氏左近將監實澄名高千世曾孫元實始來
藝仕洞春侯至先生乃六世也先生生二載患麻疹遺毒發腫為跛蹇幼穎
敏長好學適京受業伊藤垣菴其知友伊藤仁齋北可昌他皆大父行在京
三年歸省父母青雲侯召見講經賦詩明年從侯東觀抵京交遊益博凡淹
京十四年而還明年又東遊林整宇之門擢助講正德辛卯韓人來聘先生
授簡迎接學士東郭有日東諸士總能文大手騷壇獨許君之語聲藉甚都
下 文廟採詩覽之拊髀大歎因欲聘先生辭以癯疾而止享保己亥藩新
建孔廟廣屬學官之路召先生於東都司業明年春擢班同前隊長是日役
人藩儒臣雖祿大也未曾有列此班者儒林榮焉先生率生徒有方以德語
之彬々咸興學廼及都下邦內嚮化云在職十九年元丈丁巳十一月二日
卒于官先生廉介公方好直徑行雖或乏溫藉之風而視人之阨如已有之
傾資救焉其文學乃天性也小長呻嗶老而不衰宜乎儒宗藩廷而有功斯
丈也歲五十而無子養阪氏為嗣名實廉字彦平後舉一子名某先生延寶
丁巳某月某日享年六十一葬長城南和泉寺山私謚曰長肅先生

疫神社

大谷よあり社司田村氏贊祠す

祭神詳るゝす天正年間の勸請と見えり棟札左に記す

上棟疫神宮一申右者為天長地久御願田滿殊信心護持壇
那金剛未資甲力息災延命相受快樂常寺繁昌佛法興隆諸
人護持當卿當村家門安全悉地成就故如斯大工勝久敬白
天正十九年辛卯三月十六日 列當扶盛

南陽山松雲院 同所繩手の中程北側よあり濟家の禪林よ

して京都南禅寺よ屬す

本尊ハ觀世音菩薩よして開山ハ前真如元仲和尚諱ハ見
甫といへり相傳ハ當寺ハ慶長年間 天樹公の御草創ふ
り元安藝國廣島よありて平安寺といふ其後防州山口柴
碕善福寺の境内ハ移す又香積寺へ引まゝ乾鼎和尚住職
の時天樹院へ移させらまて則 松雲院殿の御菩提所とせ

らまより夫より又堀内今養學院舊地と云ふ所地を賜ふ就中焼失

して濁り淵を過る今長藏寺の地それのち遂に當所を轉せりと

いふ本堂を掲る所丈室の二大字ハ黄檗木菴の筆なり古釣

鐘一基銘不明天平十年二月日青金壁入三百斤とあり此のハ唐物なりとて上へ納まりたる也

柳江晚鐘 同所より濁り淵邊までをいふよりへ萩ハ

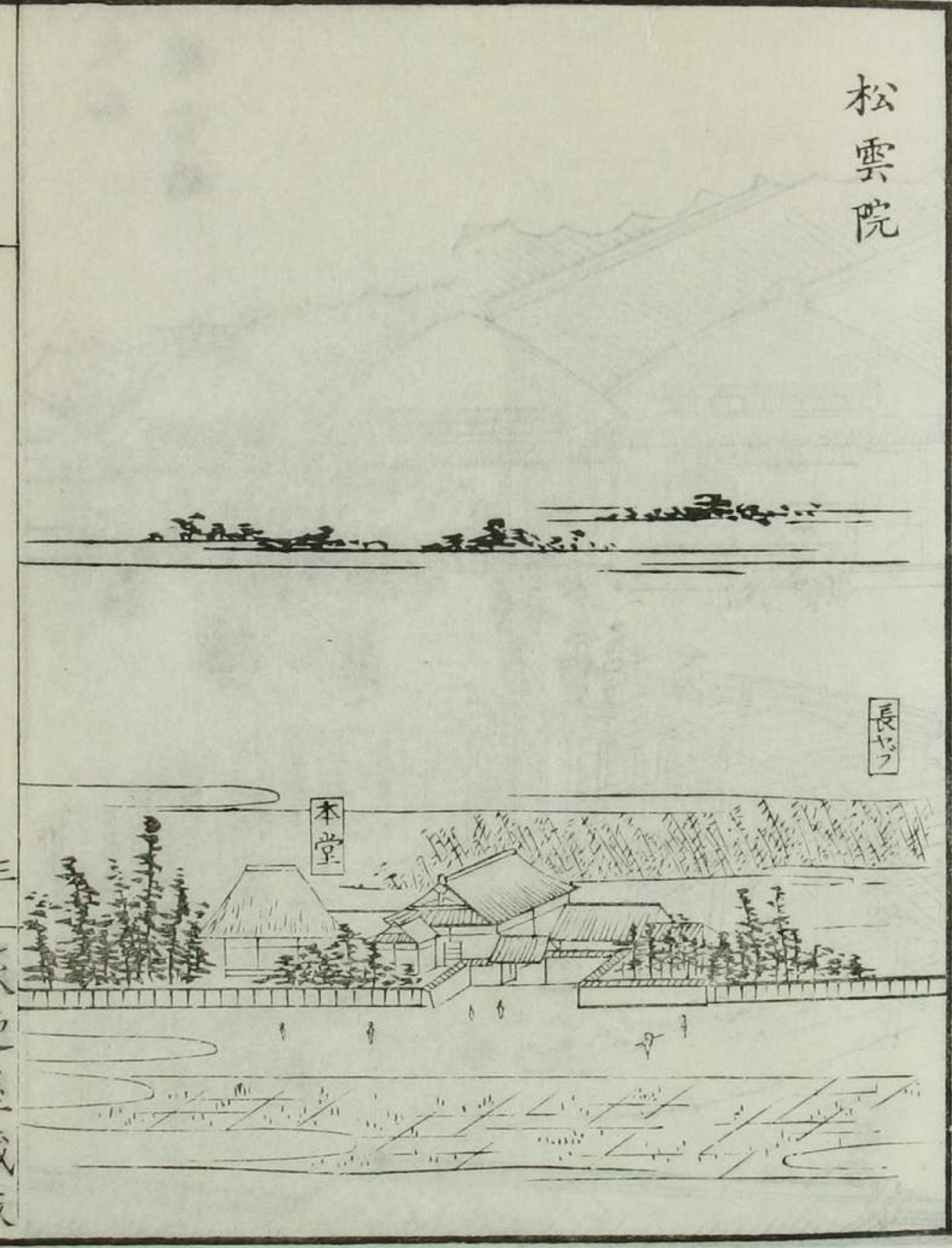
観の一ちりといひ傳ふ

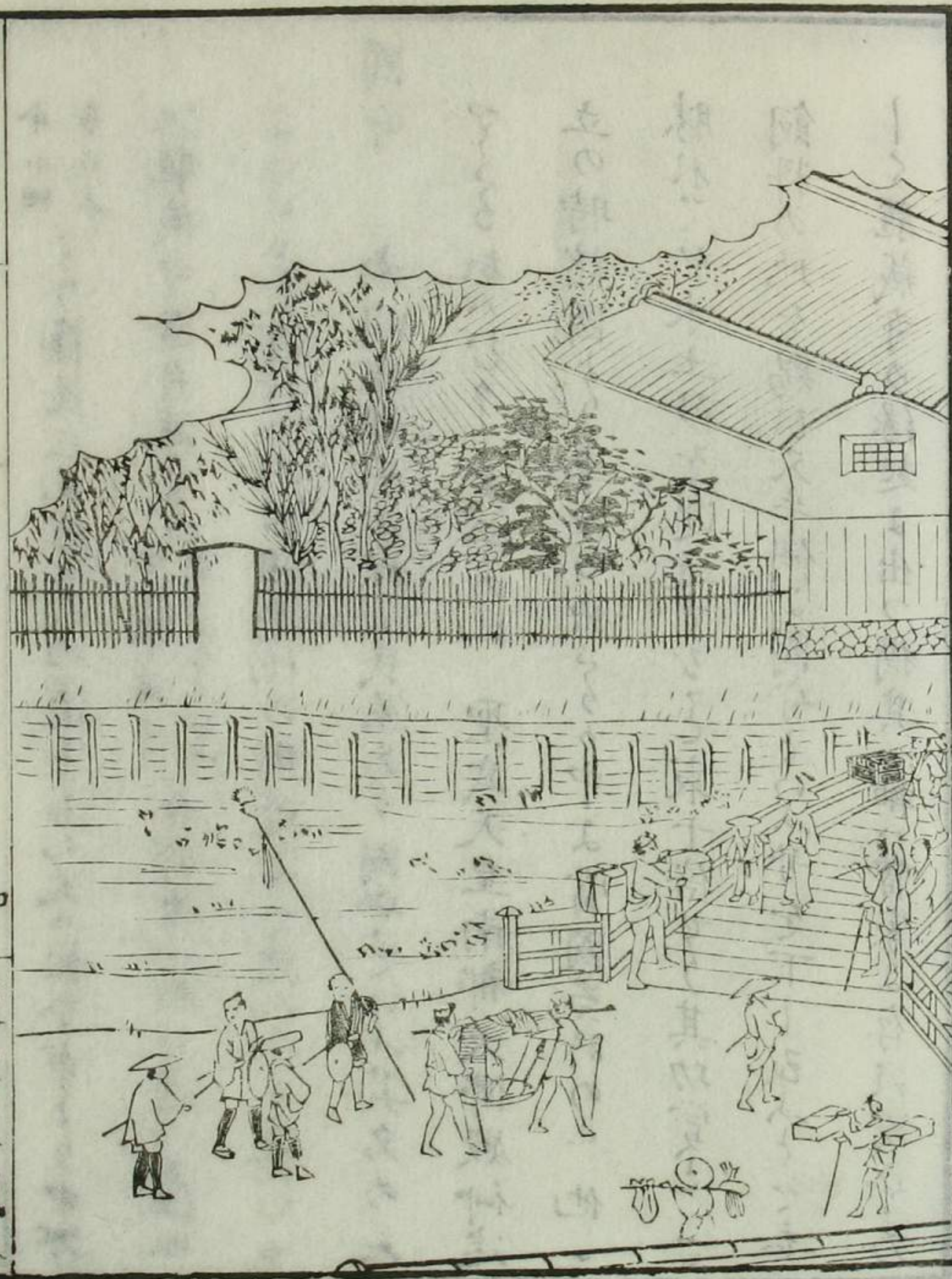
陣ヶ原 今の沖原の地をいへりまゝ吉部原ともいふ古

昔松倉伊賀守岩成豊後守と合戦せり古戰場なりといふ

まゝ當所いふへ石見國よりの往來の本街道を埴田

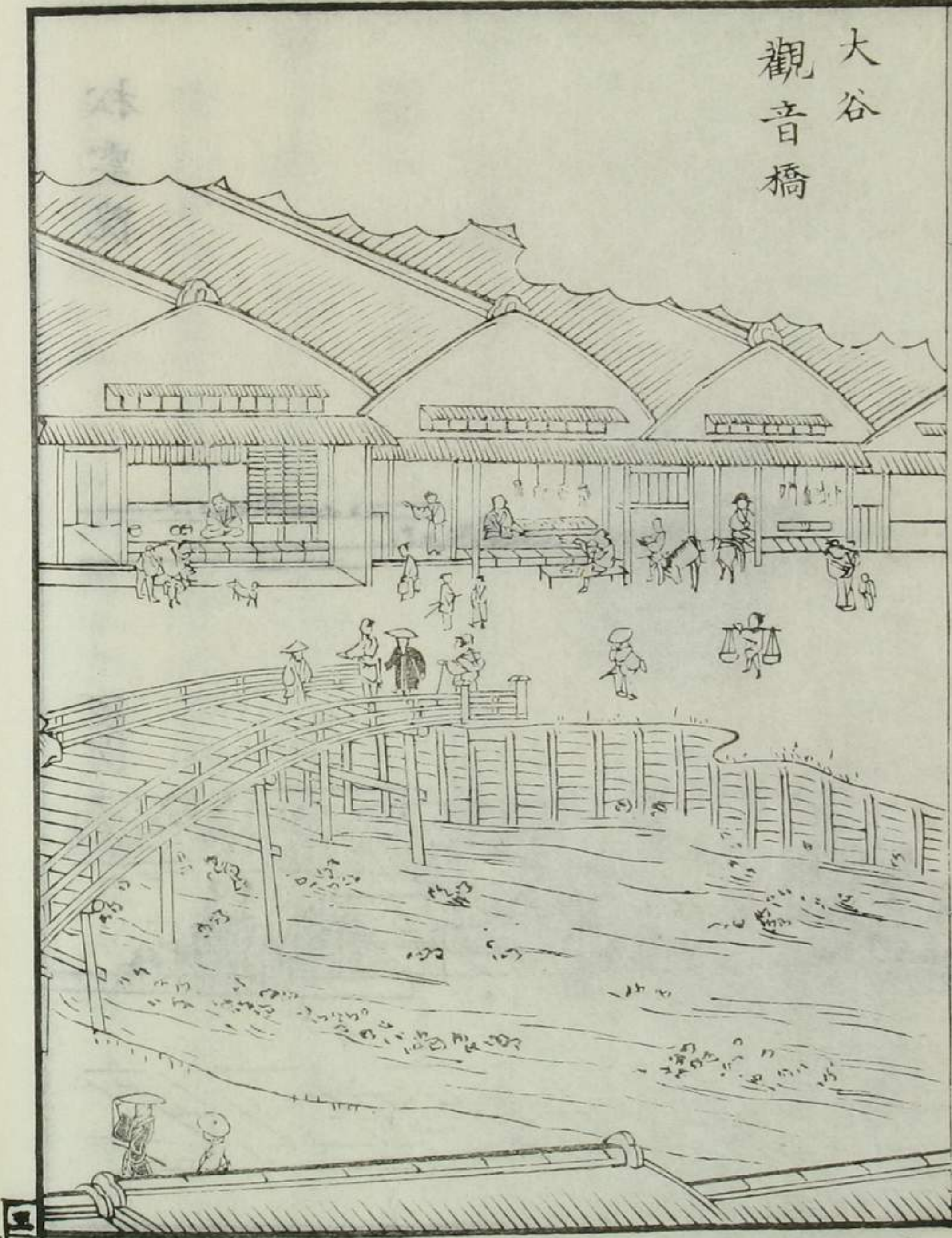
松雲院





四
上
火
通
程
藏
飯

大谷
觀音橋



二
利
延
屋
精
所

今小畑より篠並三見るとの道より又ハ松本市より中津

江龍藏寺邊舟渡今の渡場より吉部原小松江通り玉江坂

より遊行人回國遊化の街道と諸人今も通行する

國守 南明寺繩手中程は民屋あり國守といふ其名の

アツルおハむく天平の比 聖武天皇南都大佛殿御建

立の時諸國より車力の出る中ハ當國當所の他

勝れて竹木土砂を運送すること最十倍せり其功賞とて

飼料の地を賜ひ又牛飼は國守といふ号を下しむとて委

しく龍藏寺の縁起は出づ猶其一軸ハ當家ハ存は國守乃

説古よりいひ傳ふといふものあり恐らくハ上古國守の末

孫縁起を國守の家ハ所持せりけハ龍藏寺大日如来の加護とて

歳正月元日ハ玉江の万歳といふもの早朝より國守の家ハ未りて乃歳樂を唱

へ舞ふを旧例といふ夫より御城は基所ハ出て御家ハ繁昌万歳と壽くを吉例と

日輪山南明寺 同所山の麓はあり天台宗の禪刹として

最古寺なり周防國山口郷氷上山真光院ハ属す中興ハ權

大僧都法印源康として大同年間ハ創建なり

本尊ハ聖觀世音并して脇士千手觀音四天王等ハ行基并

の作る所なりといふ相傳ハ當寺ハともめ真言宗として優



六
 大
 地
 程
 載
 版

南明寺
 花見の圖



三
 利
 延
 屋
 藏
 版

婆塞修験の山伏等交々住職せし道場あり後慶長年中宗

風を改めし氷上山に属す後又 天樹公御再建ありて當所へ

遷されりあり 當寺ハ七観音の第二番あり堂宇ハ禁より五丁より上

あり此堂宇ハ竹田番匠の造修したるをむりより

連綿すといひ傳ふす飛彈 の甚五郎より作るりとつり

薬師堂 坂中ニあり本尊薬師ハ弘法大師

護摩堂 今禁の観音堂をいふ本尊ハ十一面の金仏安阿跡の作照立藤祖の

不動明王ハ御長二尺五寸余の立像ニ肘子中ニ牌板をかき其文の

あまを左にあらす 寛永の比のまむらひを

當寺庭前の系櫻ハ古より栽置しるもの の丈も南明寺の系櫻

三密金剛乘仏子果堅謹書

奉造立長州日輪山本堂観音侍立不動尊 竹工藏増河内守

益田玄蕃頭藤原朝臣元堯

た云ことあれハ氏にあり まゝ法印玄海住職の時観音の靈夢を

よりありしと明らなり 蒙りて植すハ春時爛熳として尤壯觀あり歳々ハの初午

ハハ市中貴賤袖を連らねて群参引もきくは或ハ三月の

花盛ハハ老々も若きも系櫻ハ由縁をわらぬ筆墨を携

へて詩歌を吟まらる何れハ酒肴をいひきて舞唱あり其

興を催まふいりていみま同ハハハ茶店食舗の類ハ

を嗽らりて所狭く穿ハ春遊佳境の一にして勝景筆に

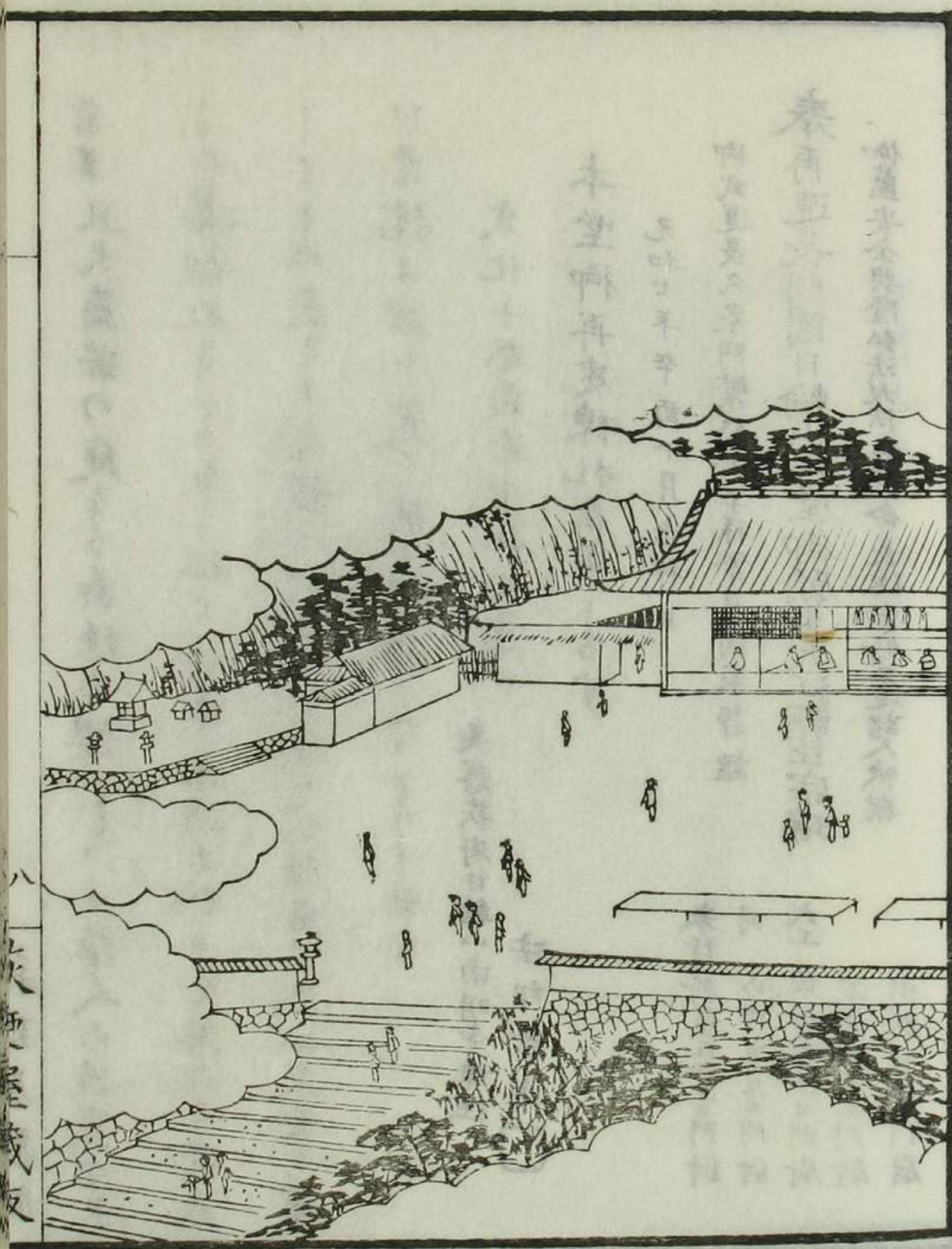
盡ハカ

日輪山弥生曼陀羅序

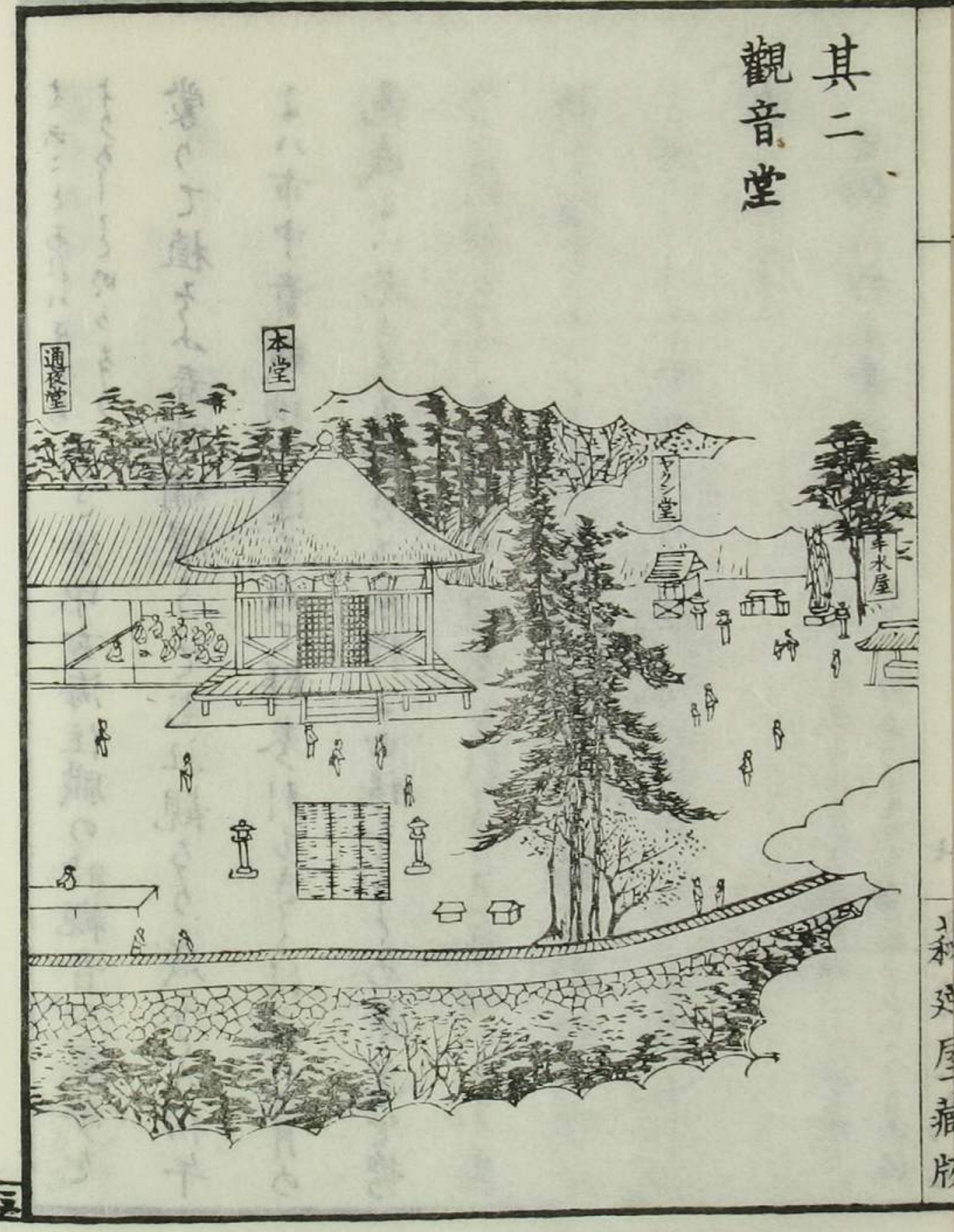
こゝに近きものれと極の古より繁茂して

七 めてたありさぬを書出されハハハハ

七 版



八
大
新
一
屋
藏
版



其二
觀音堂

通夜堂

本堂

三
和
延
屋
精
版

前畧且夫蘭若の庭さう垂絲の櫻ハむう一誰人の植置たる
よや其初めささるるねと貞享元祿の比とも無双に繁茂
してその長さ十丈餘におひのひ園々に枝垂て九一反面を覆
ひ柔撓は裾を曳て庭上を掃さうさう云々

文化十癸酉季中和如意日 長藩萩府日輪山南明寺現住
法印玄海 □

本堂御再建棟札左よゝるす

元和七年辛酉十月吉祥日

御武運長久家門繁榮御子孫繁昌國家靜謐

奉再造長門國日輪山本堂御願主大江朝臣宗瑞

伽藍安全典隆弘法大法主惠命長遠勤修道諸人快樂

奉行新屋五郎左門尉
同 山田半左門尉
大工 佐伯源左門尉
万代六左門尉
川村七左門尉

古制札左よゝるす

當寺住持職事光祐法印
相續通妙他修勤行英
寺役あり候を急務了致遂
に心即者也何一行如件

元和四年正月十日 垂祐五

宗瑞五

氷上山高住源康法印

禁制 南明寺山

右竹木採用事は従前一里
固ら加制し、其竹木採取地
仁木山麓、後基山麓、日合
山麓、和野山麓等處は、交易
可有、往來し、依て左右の竹
材、是處に採制札如件、

明應六年十月五日 兩

由

南明寺立山制札事

右任治代、河判、七百重加制
山果、但四至若、東西、西南、山先
神、其、湯、領、内、維、經、他、領、山、其
皆、至、材、木、并、薪、木、取、取、亦、採
用、仁、表、山、表、交、各、可、有、注
冊、依、其、右、左、墨、圍、の、加、成
敗、者、也、仍、制、札、如、件、

永正六年二月一日 經繁南

函

胡年任持職事任
先任所屬之旨を裁
評し畢、若くは家之
領全を裁判執行等
其急務之彼遂其子に
者也の一行也
寛永拾壹年三月二日

五

山内寺中

山内寺中
山内寺中
山内寺中

山中觀世音
尊像の上
掲る扁額

山

山内寺中

太甲菴 今川島天王社の前の流れと世俗のいひ傳ふ所之太鼓灣帶虹灣と書り是ハ文人騷客の用ゆる文字之も六本松山邊のくに太甲菴と云菴室ありしゆれそ名あり今ハ住捨一人もなきにわたりも朽れと餘波の残りて太甲菴とかけら扁額今猶天王社に存せりこれ證とまゝに足まり

聖安山景真寺 霧口にあり妙心寺派の禪宗にて大照院に属し開山ハ前住妙心賜紫沙門竺印和尚中興無着といふ本尊ハ釋迦如来の木像脇士ハ達摩大元の二大師之

當寺ハ昔川上村にありて溪心寺といひし寺院を當所より引て宝永年間の再建なり

太子堂

本堂の右にあり本堂聖徳太子を安す此堂は三世玄光首坐本山妙心寺秘華院へ行し時彼寺より玄光ありて即て浪速天王寺に詣て主僧の免許を得て當寺へ持来り安置せしむるなりといひ傳へり

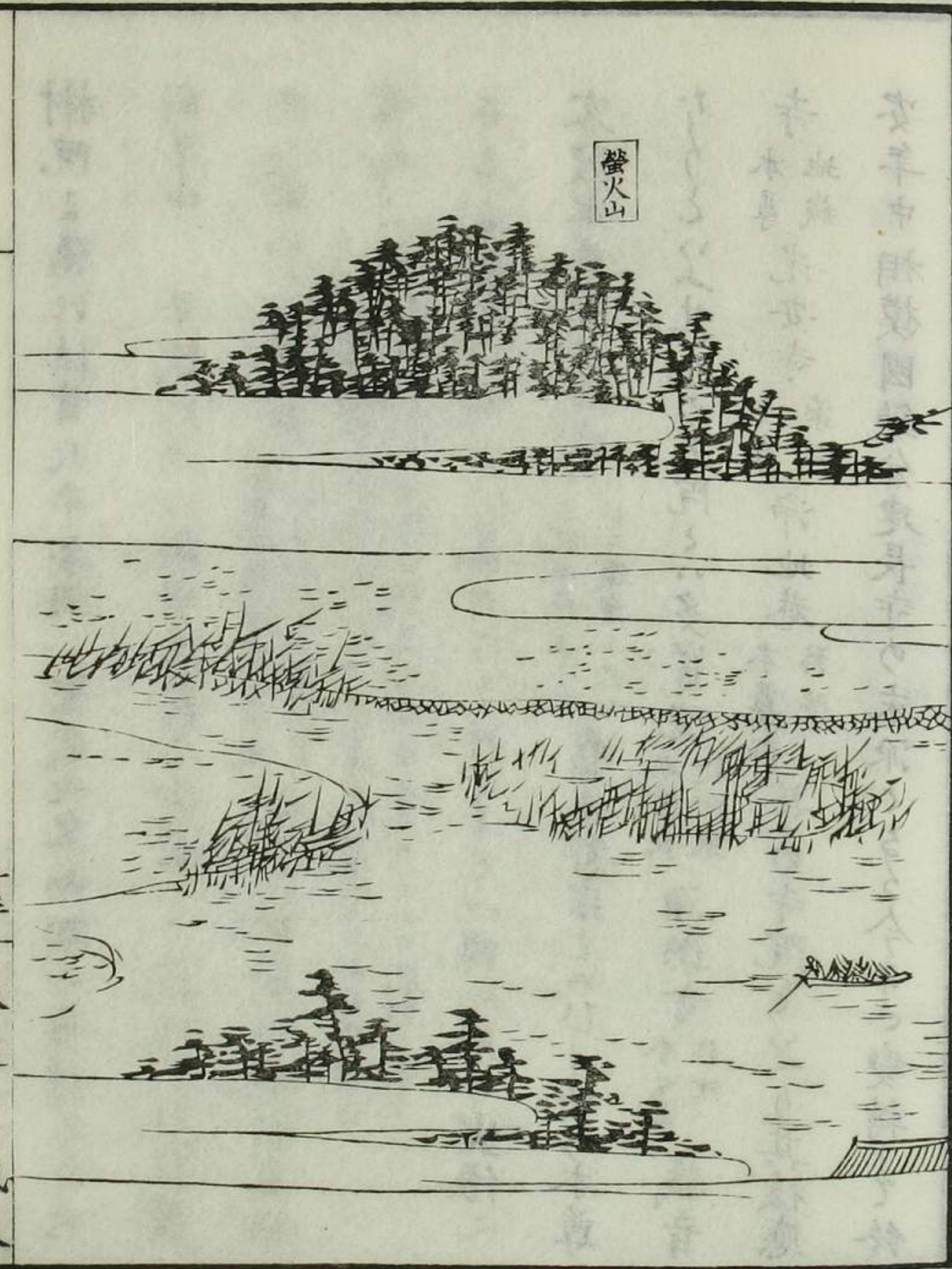
上津江晴嵐 八江萩八勝の一として風光最奇觀なり

上津江上歛秋霖 度嶺嵐光浮乍沈

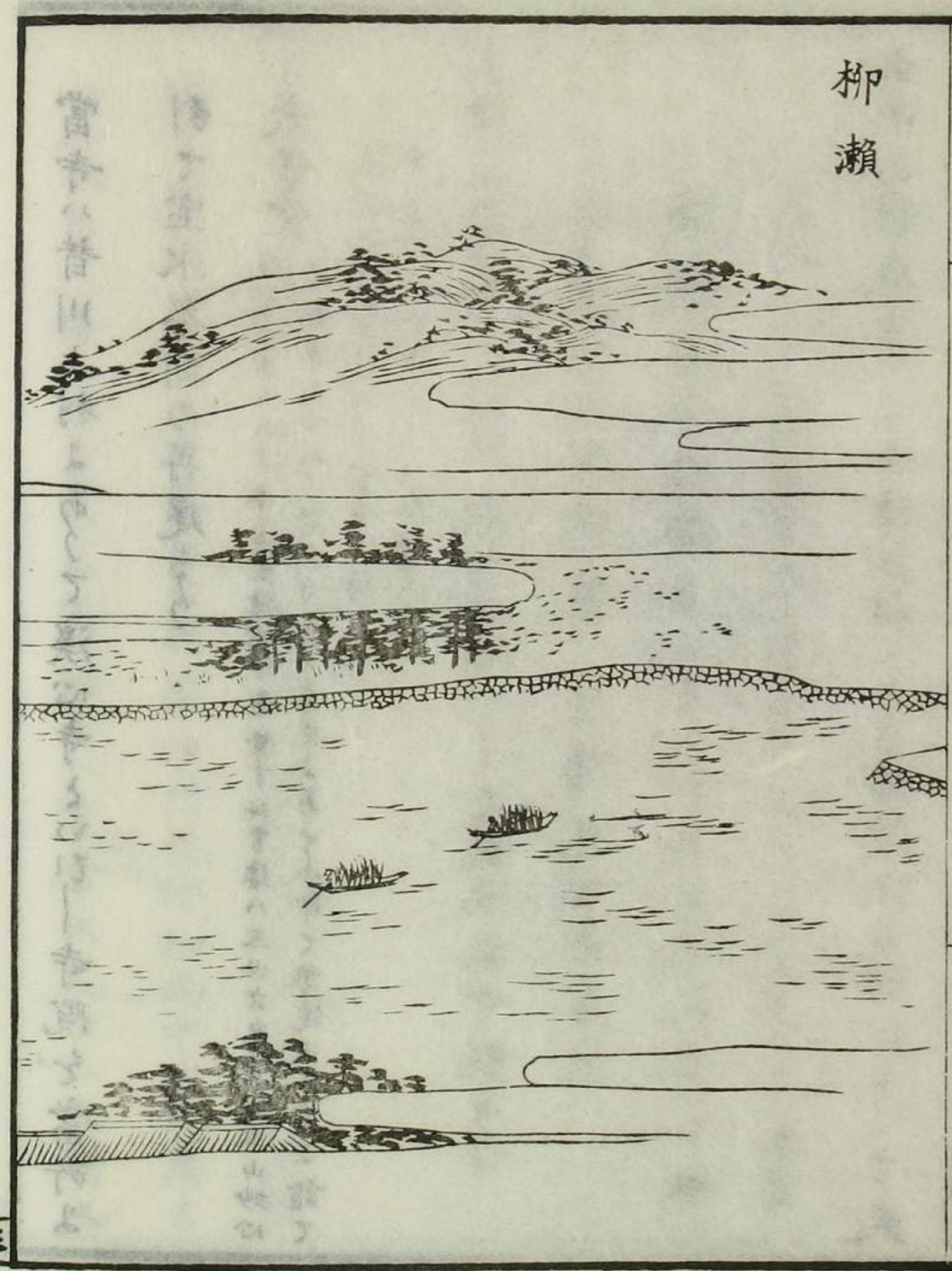
旋輿扁舟傍灘落 日登丈五翠猶深 原欽

山川のせいの勢をたふさぐよりの浪をそそり流るなり 春貞

白牛山龍藏寺 中津江村にあり臨濟派の禅林なりて天



十三
欽
燹
羅
藏
版



柳
瀬

三
未
及
屋
藏
版

樹院に属して往昔天平年間 聖武天皇勅額の舊蹟あり大

同年中 平城天皇の御宇草創の伽藍して萩随一の古梵

刹の開山ハ行基并 阿房國菅原寺にて遷
化す天平二年春二月二日 中興ハ石屏勅佛宗真悟

禪師と号し 開山傳は曰諱ハ子介字ハ石屏山無準下天山道隱師の
法嗣して入唐す元徳元年辛酉二月十四日遷化す云々

本尊聖観音ハ開山行基の作る所にして一國一躰の靈像に

客殿本尊大日如来 三尺坐像にして
仏工運慶の作 舊南都宗といひし時の本尊

なりといふ其比の五院といふ多寶院 本尊釈
迦如来 浄樂寺 本尊阿
彌陀 藏音

寺 本尊
地藏 光安寺 本尊
藥師 浄地菴 本尊阿
彌陀 等の寺院を以り其後應

安年中相模國鎌倉建長寺の末派とあり今また變轉して終

り天樹院を觸頭とす 當寺ハ七觀音の一
として第三番目なり

寺傳は曰古昔人皇四十六代 聖武天皇の御宇天平年間

南都大佛殿御創建の時諸國に詔して牛車を進らせり

夫中より長門國阿武郡堀田の庄 今の萩ちり萩
の條下に見ゆ 川島の郷よ

り率出さる白牛ハ他國の牛に勝りていう計るる大木大石

といふも更なる勞を以てて運送せりて日毎に曉より初

めて黄昏にいたる遂に牛飼の者も綱を放りて都の貴

賤言哂さるハちりたり折節 陛下に聞えたりハ 嚴感斜

るは是則大日如来の靈驗ありて即て褒賞して

上津江晴嵐古圖

山河代勢の

あさふり

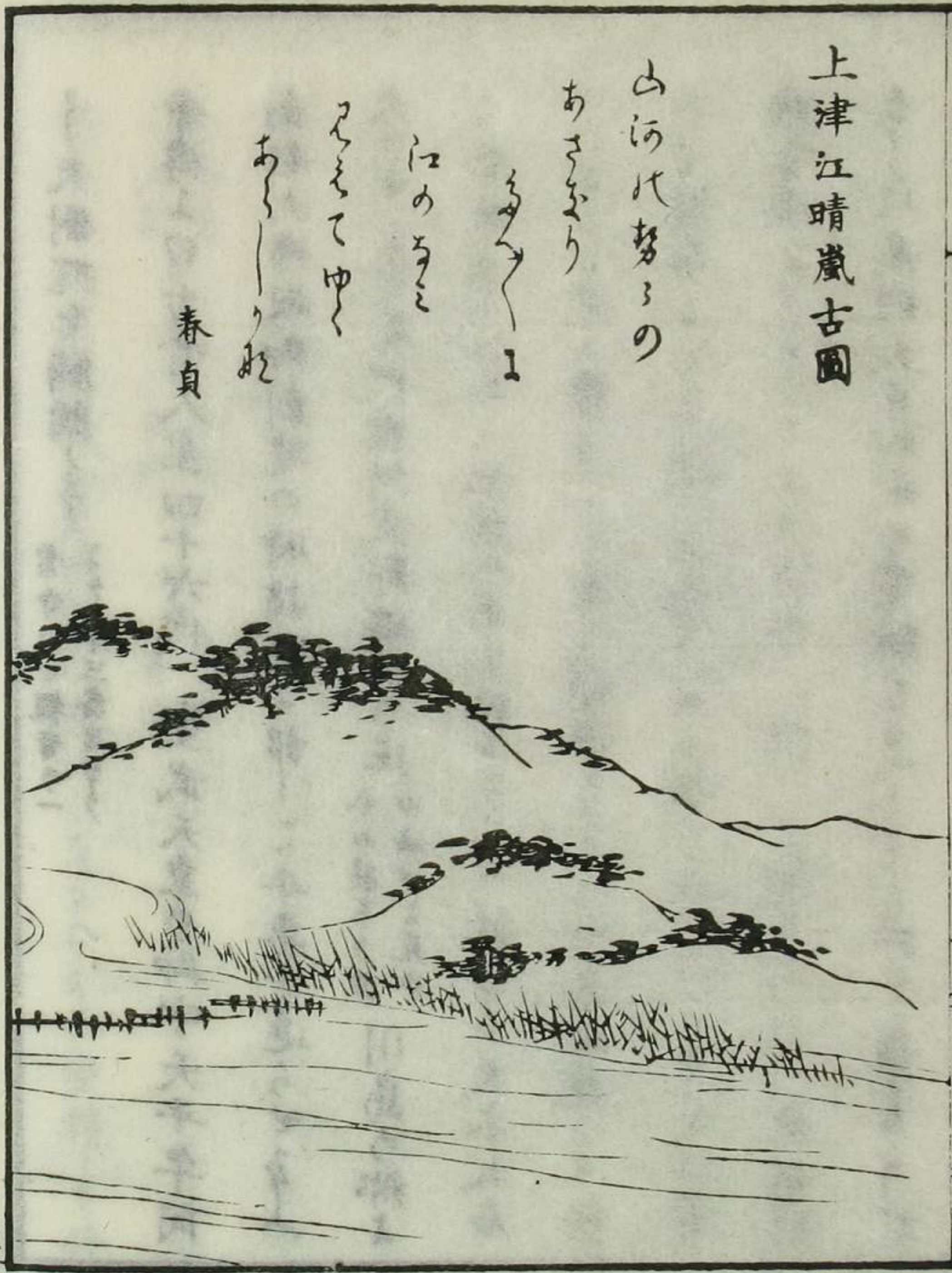
まじり

江のうら

そそてゆ

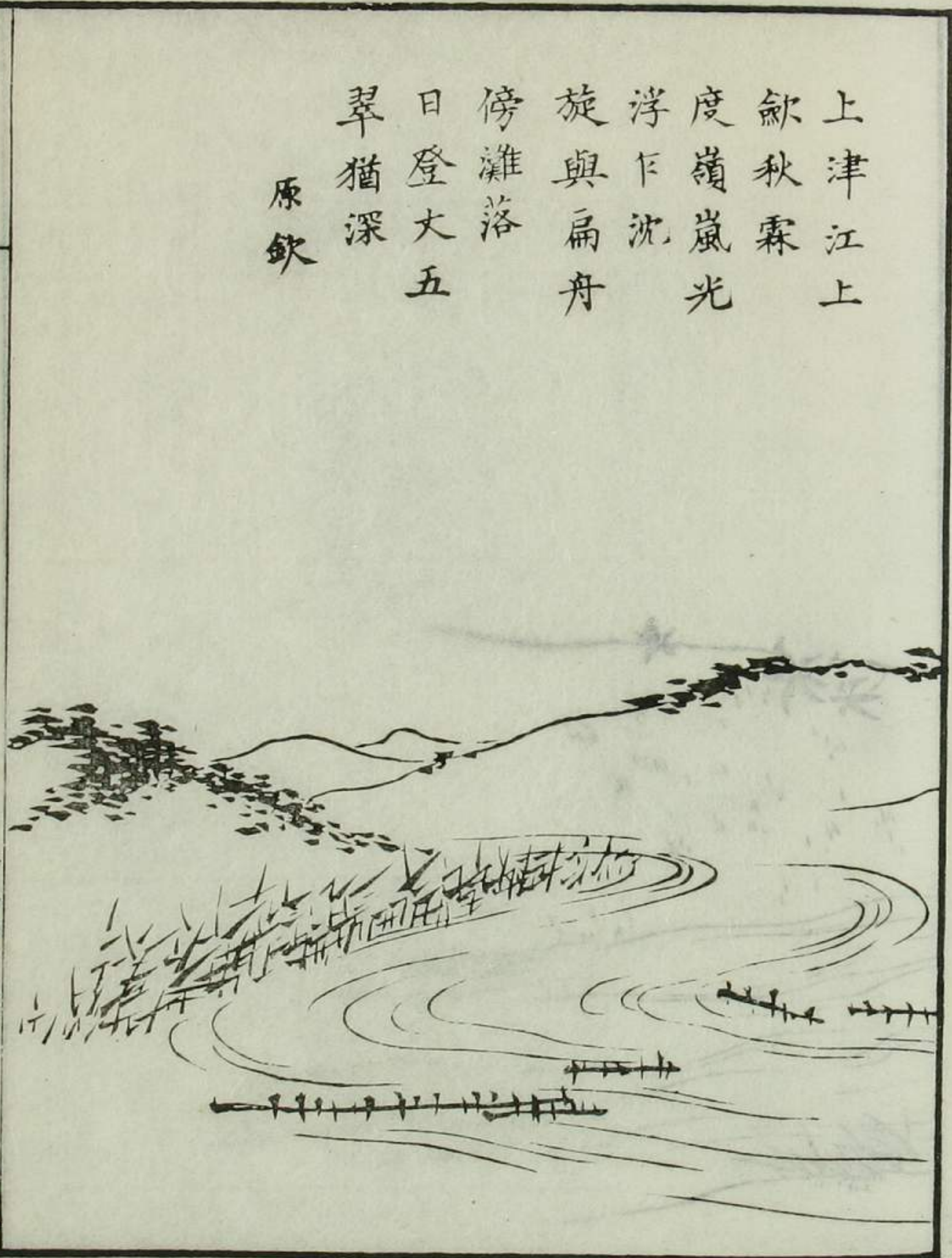
あ〜〜〜

春貞



秋屋藏版

上津江上
歛秋霖
度嶺嵐光
浮下沈
旋與扁舟
傍灘落
日登丈五
翠猶深
原欽



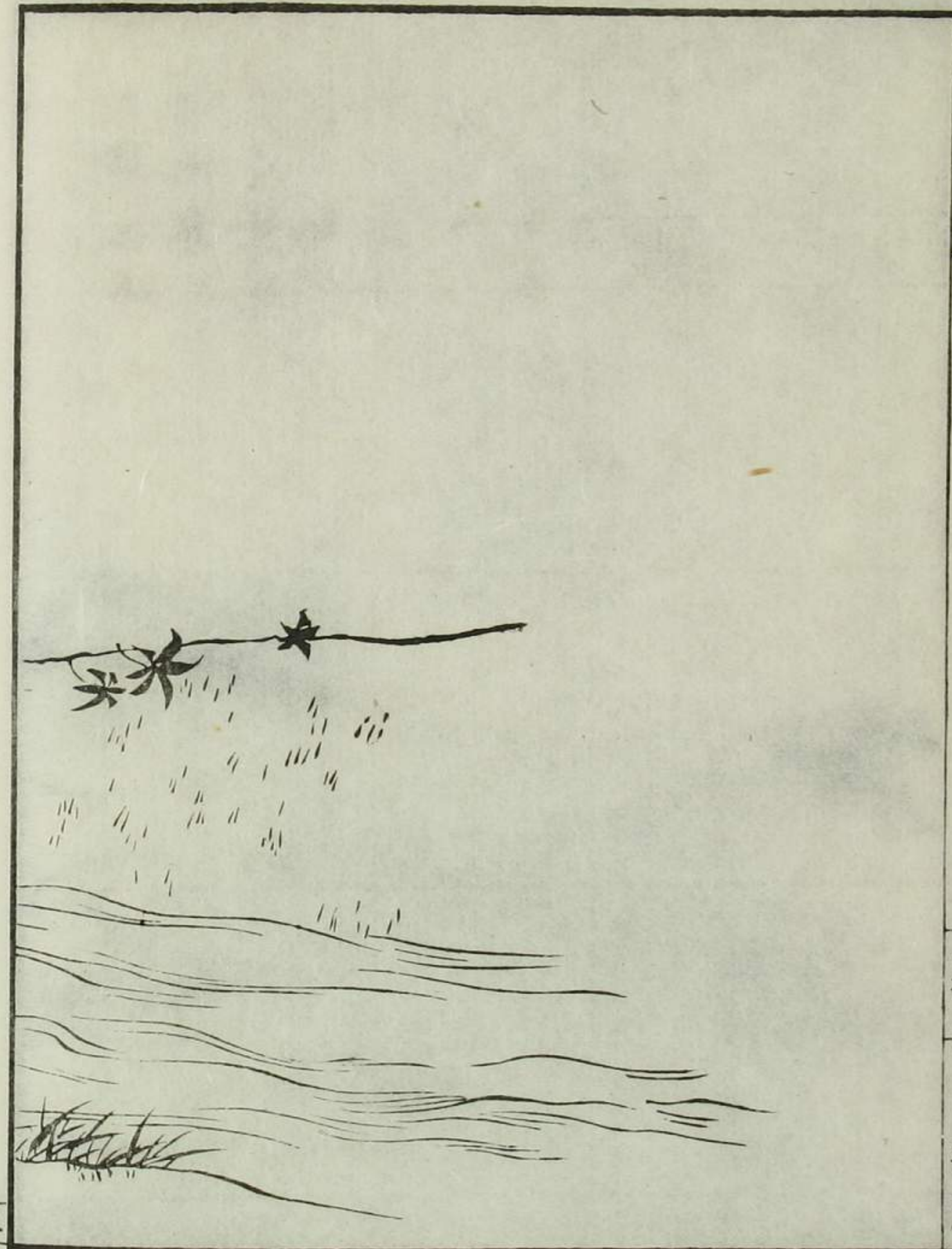
十五
秋
火
更
屋
藏
版



三岳圖目圖

十六
 映
 屋
 鏡
 板

東大香
 一
 時
 備
 於
 官
 署
 前
 上
 堂
 下
 其
 門
 外
 有
 一
 池
 水
 清
 涼
 宜
 於
 消
 夏
 之
 時
 故
 名
 之
 曰
 清
 涼
 池
 也



三
 未
 艾
 屋
 痛
 片

三

此牛に耕作の勞を禁し且牛飼ハ飼料の地ま國守と
りハ号を下賜とぬ是より已降長門國中の牛ハ竹木に
かきくはよりのもれ負とる事を止むは國守某の住居せをと
作り取と是を牛飼料としひ傳ふかくゆあありり五反面ハ今もなれ作も
てら堀田の庄を牛鋪の庄とさく改められとる事 朝廷より白牛
山龍藏寺と勅額を賜とり堂宇伽藍新ニ建營ありて結構
備とり其後かの牛の像を彫刻して南都東大寺の境内
浄土堂に安置せられとる事としひ傳へり

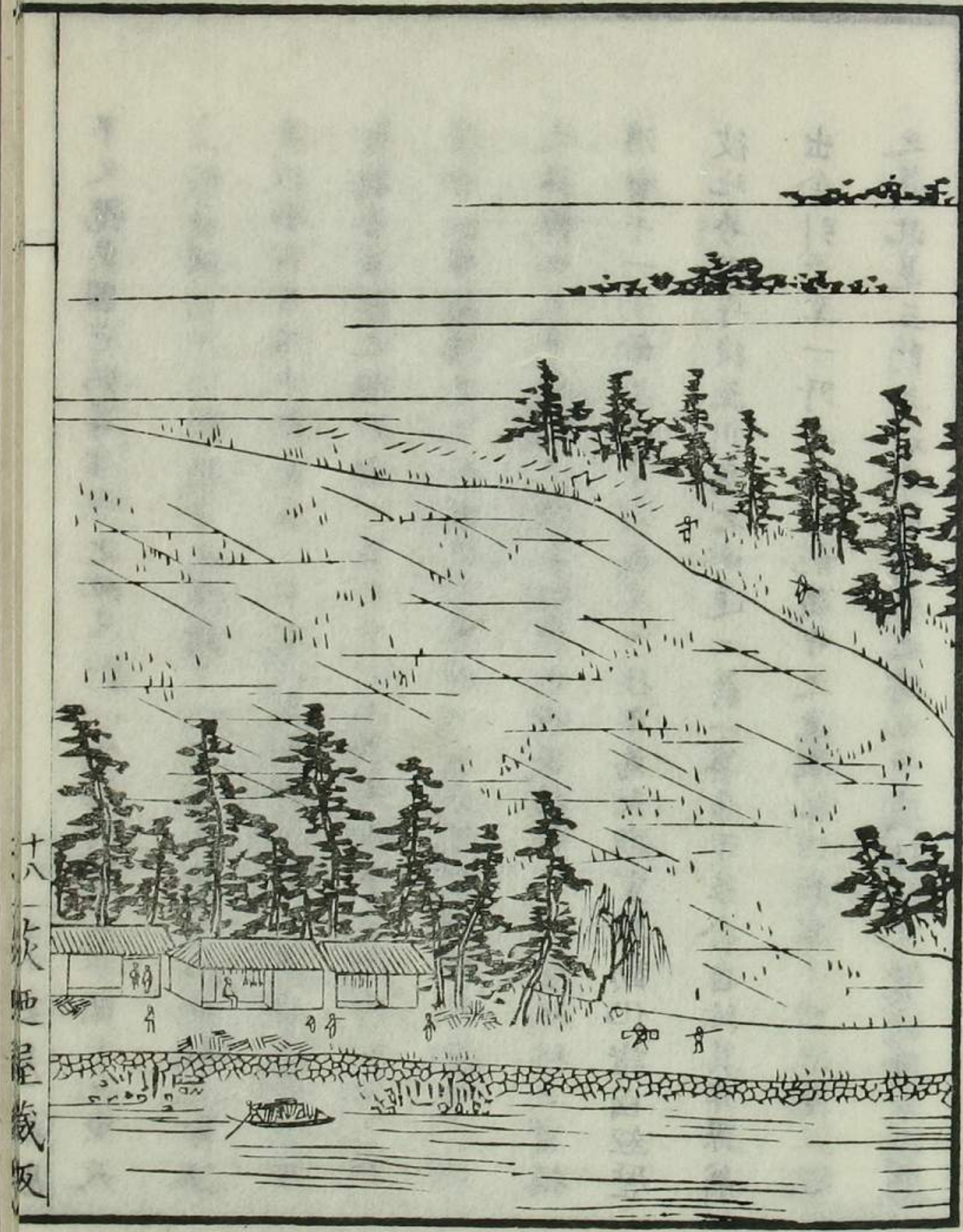
縁起一軸 勸修寺宮二品齋源親王の真蹟あり是ハ

東大寺ニ藏む今當寺ありハ公慶上人東大寺住職の寫を所

ふりて國守某ハ家ニ預りおけとし左とりす

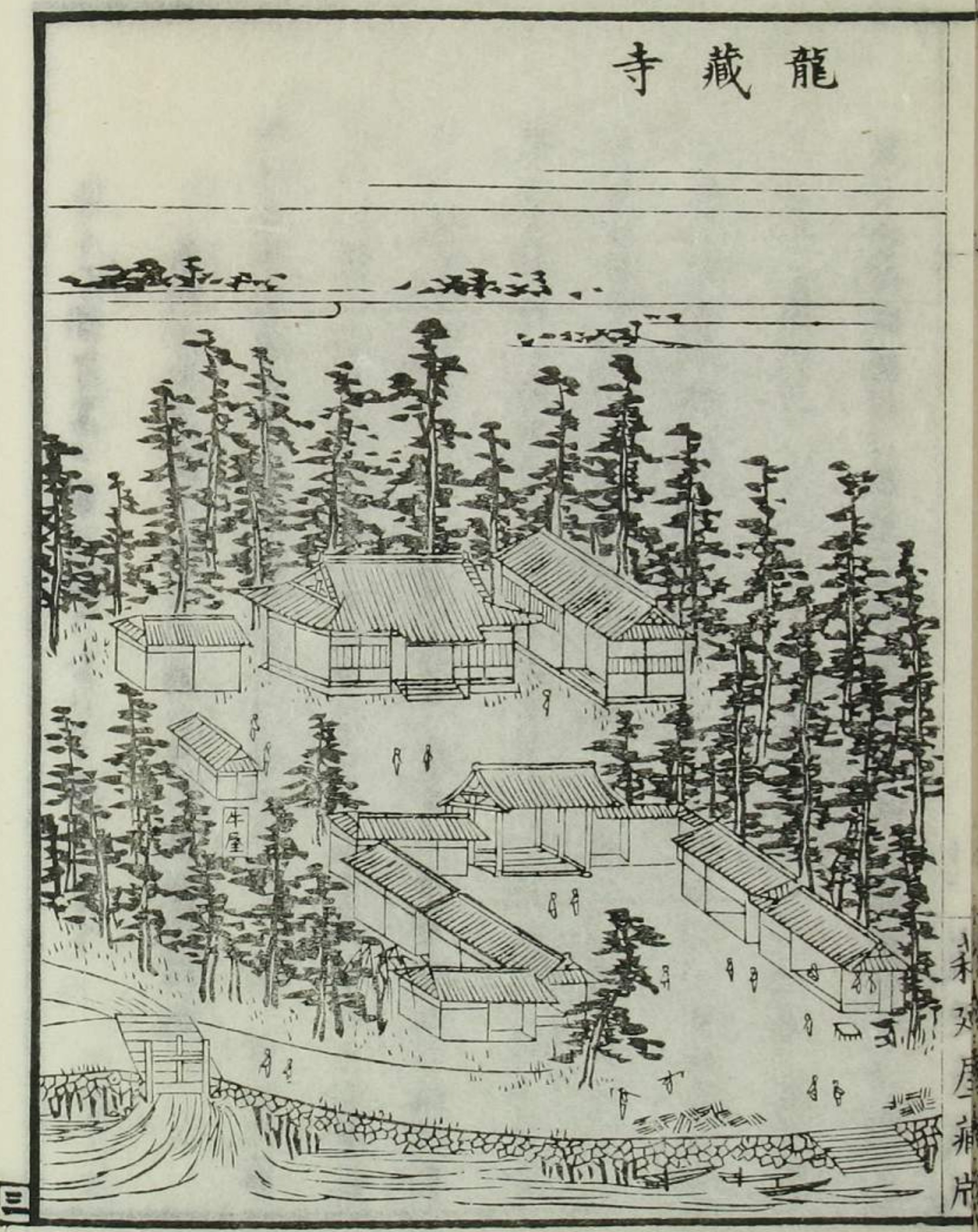
長門州阿武郡牛敷庄川島白牛山龍藏寺縁起

嗚呼春花落英秋月揚輝嚴寒速去溽暑忽至年々歳々實如旦暮
千百年後則往事荒昧難可尋矣依之見之盛業勝事必可命筆記
之耳長州阿武郡白牛山龍藏寺者 聖武大帝揮宸翰賜額之名
蹟也古老傳曰昔天平年中 聖武天皇大佛殿草創之時朝廷令
諸國出車牛長州多出好牛中有一頭白色殊好肥壯多力能牽巨
材其迅如風即編民國守之所牧也大殿土木功終帝勅雕其牛像
作堂安之蓋愍其功勞脫其罪報也今東大浄土堂之基此其地也
皇澤普潤賜國守以綸旨并芻料令其牛終不復役田疇畜齡短促



十八
次
地
屋
藏
板

龍藏寺



寺
屋
藏
片

不久斃矣國守就其埋骸之地又創一堂以時祀焉事聞于九重天
上於是賜白牛山龍藏寺之榜額且以堀田庄充僧徒粥飯之費依
是改堀田名為牛敷矣至平城天皇御世恢廣先基營造梵宮安
聖觀音菩薩之像即僧行基之手刻而靈應顯著遐迩渴仰其三門
房舍經庫鐘樓等凡伽藍所可有悉成宮殿盤鬱樓觀飛鷲實一時
之盛觀也夫事極則反物盛必衰自時厥後世迂時變祇林之賢構
消磨于一千餘年之星霜盡矣予往年為大殿重興勸化諸國經歷
彼地尋國守後至川島之鄉逢一翁一婆居于草舍自稱其耳孫翁
出舍引予至一所云此即龍藏寺之遺蹤也指點處曰此是正殿
之基此是三門之址此是僧房之跡也予感往事不覺淚降幸哉應

安年中佛宗真悟禪師者出世構精廬于其跡改教為禪至今元祿
壬午十五年三百三十有餘歲衣末法嗣不滅家聲現住溪翁禪德
特謁予慙乞書其顛末予悲其記錄碑碣無可見而往事難尋意謂
今而不記又令後人悲於今也雖老且拙不之拒直寫古老口傳綴
緣起一章以酬其需云

寺寶 大槃若經六百卷

琳聖太子二十一代大内左京大夫盛見寄進と書たり

二王面

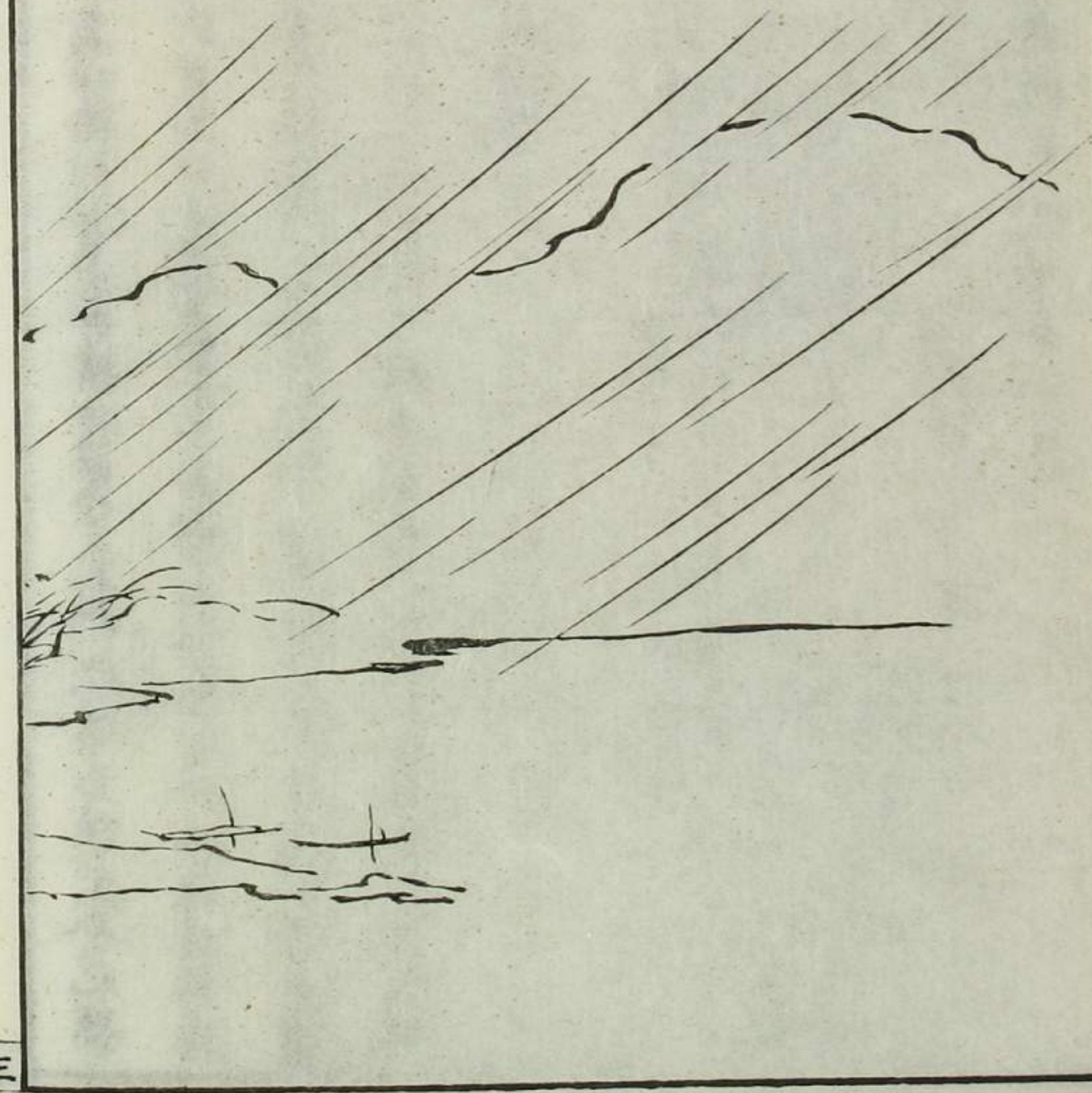
中興歸朝のとき蓮祥といへる仏子將來の二王面なりと寺傳
よいつり志うハあれと洞春寺傳記云昔香積寺を引て洞

春寺とせられしとき其二王門の二王の面を竜藏寺住僧所望
せしと傳説兩つありとも傳表詳くありねとを傳をのり

御再建棟札荒増をのす

中津江夜雨
古圖

雲氣四方橫
渡頭雨暗生
蕭然不能寐
一夜打簾聲
原欽



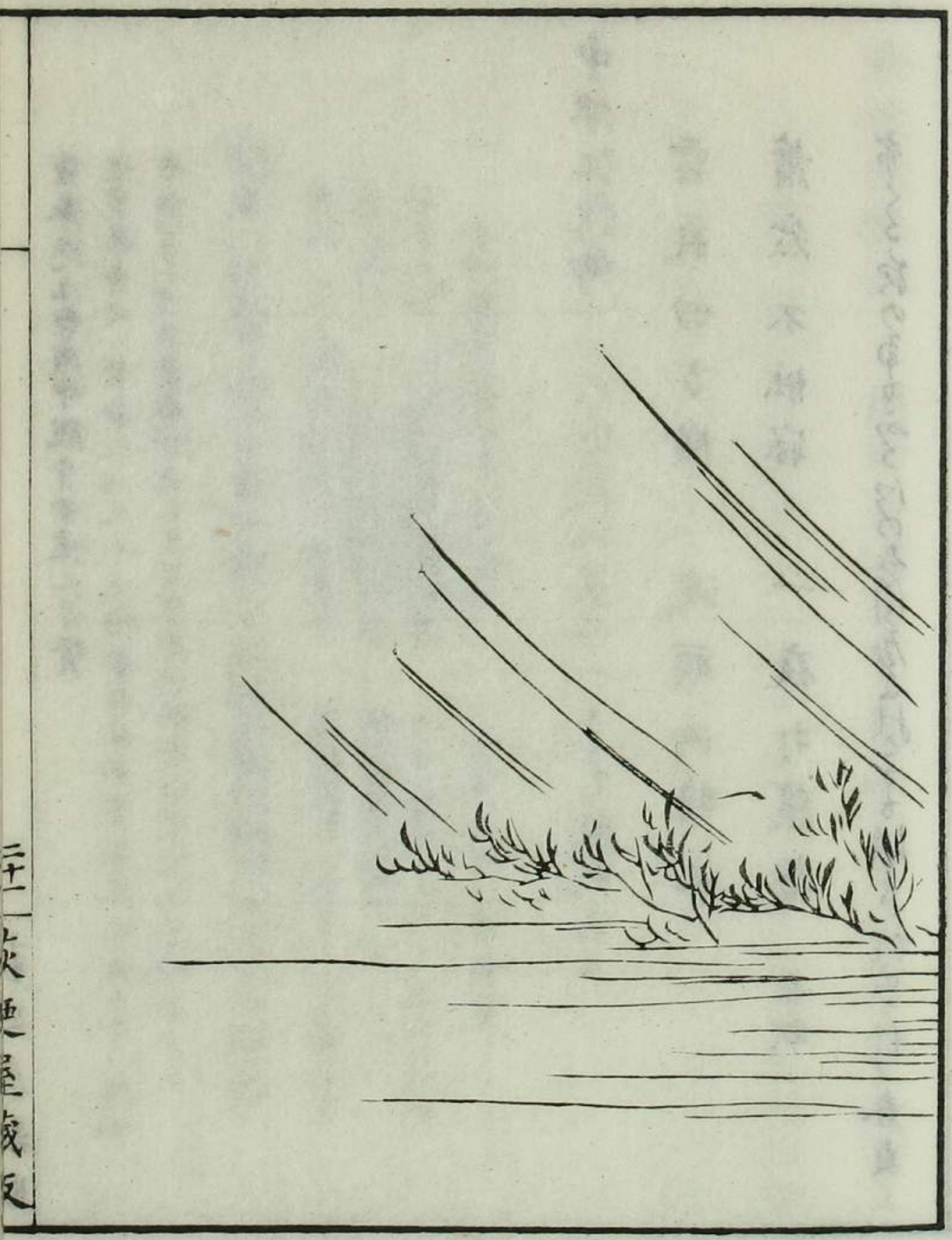
秋
延
屋
痛
片

布衣夜の
雨もゆる江の
志のゆるよ
乃こもりほをき
とのひの
う汁
春貞

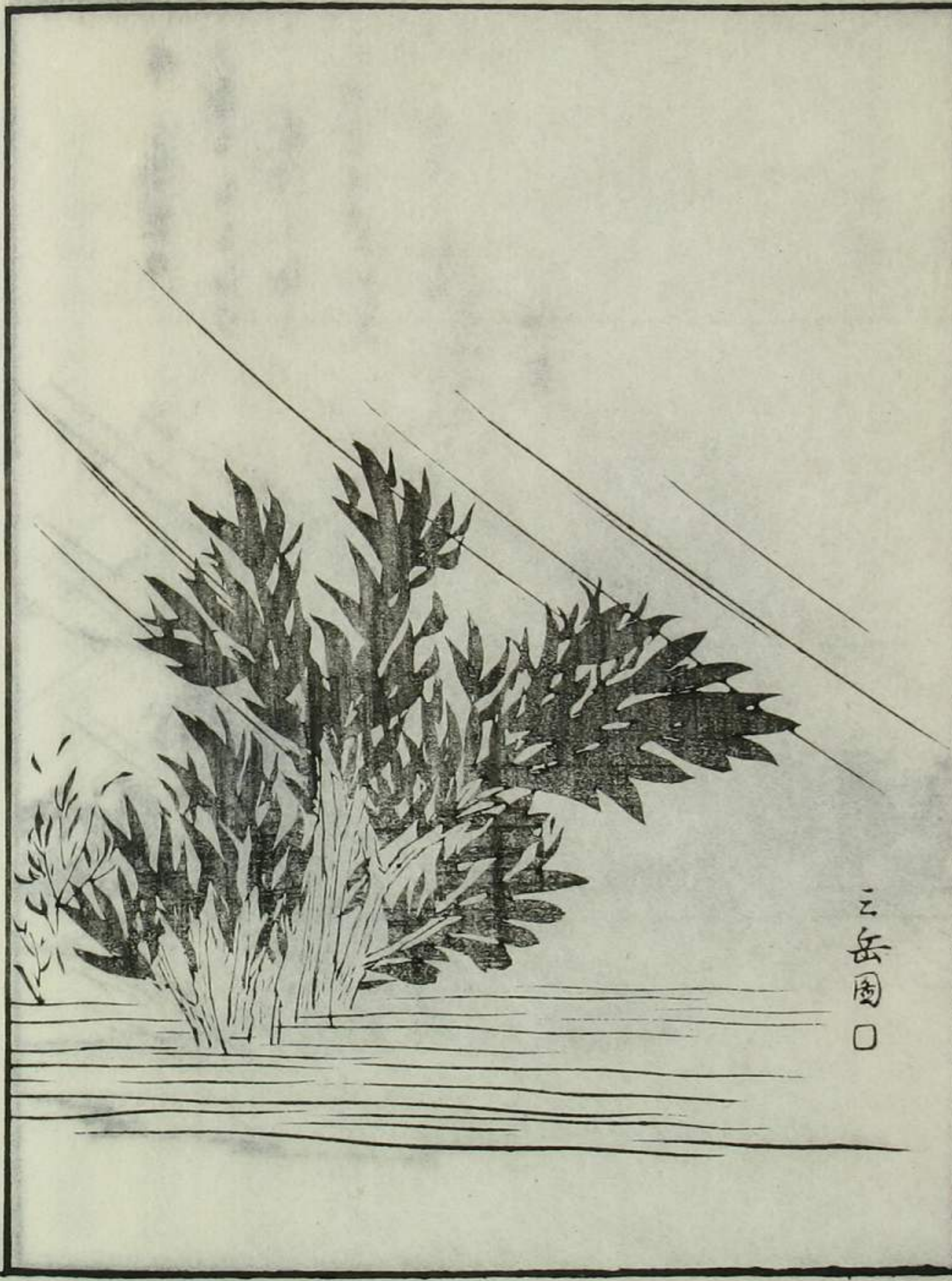


十
天
五
三
夜
天

二十一
上
火
也
是
成
反



三



二
岳
園
口

新
建
屋
藏
尼

三

重奉造立竜藏寺觀音堂棟札并贊

這竜藏寺之一梵舍大同元年之權輿而所安置恭敬者觀世音一像也
寺前有一河源極南潤流入北溟官商漁樵扁舟來去之要路也云々

防長二州牧君毛利甲族大膳大夫從四位兼行侍從大江朝臣綱廣

兼政 大江姓毛利宮内少輔就方 當郡吏司 粟屋五郎兵衛就正

造立奉行 小野六郎右衛門就兼 福井勘兵衛就重

番匠主頭 佐伯源左衛門就清 大工 熊野二郎空門 藤井正空門

于時寛文六丙午年正月吉日 傳木道安九拜謹書

中津江夜雨 八江菽八景の一として風致あり

雲氣四方横 渡頭雨暗生

蕭然不能寐 一夜打簾聲 原欽

布くる夜のももつはのちの夜はほろほろのけり 春貞

與牧權現社 同所山邊にあり當社の青山氏の掌る所よ

して椿八幡宮の幣帛を分ちて祭れりとも凡建治弘安
の間は勸請せしものと見えたりまゝ當社むうハ阿武
郡牛敷庄の産生神を祭礼ハ八月廿四日とす

古證文左より分す

宮下松竹と牧上村竹はなる

建武二年二月廿日

地江河津

多岐子

慧明山通心寺 上野の椎原臺にあり黄檗派の禪宗にして

東光寺に属し本尊は釈迦如来を安じて開山を惠極和尚

といふ 惠極ハ本寺開基なりなりと愚綴和尚開山建立す
所なり然れども惠極ハ一派の法宗ゆゑ是にのり 相傳ふ兵服町

町人長井八兵衛といへるもの正徳三年當寺を開基せり

初め大津郡屋代村にありて法光院と号せしを當所へ引け

らるり

天神堂

左より菅公の御影をかき井上八兵衛某のあし秘せしを當寺
を建立せし時鎮守神として納めしと云ふ祭礼ハ九月廿三日

廿四日

上野荒神社 上野椎原臺の南にあり勸請の年月詳ら

るは此邊の大社にして氏子多し毎歳九月の祭礼は

いと賑はるり

圓福院 東光寺山門の南に隣り黄檗派の禪室にして

東光寺の塔頭なり本尊は釈迦如来にして開山を高泉和

尚といふ相傳ふ大津郡三隅村圓福寺といふ古跡を引て
建立せる所なり開基ハ宗範といふ浮屠の者なりて元祿
年中の建立なりといふ

観音堂

如意輪觀音を安すむ一大同年中松本市
に有けるを元祿十四年当所へ移すといふ

護國山東光寺

松本上市の東にあり山背の國宇治萬福寺派

の禪林なりて開山を慧極道明和尚と号す

元抑沢氏の家臣小田忠
兵衛といふものの子なり

相傳ふ當寺ハ元祿四年 壽徳公の御創營より周防國厚

狭松谷村より東行寺といへる旧寺を御引せたりといふ所なり

即ち宇治の黄檗山を模擬し七堂伽藍等全く備へたる

了山を号けて中を馬鞍峯といひ左を千秋といひ右を万
代の尾と付らるなり

大權寶殿本尊釈迦如來を安置し脇士ハ阿難迦葉の二尊を
たたり

天王殿

本堂の前回廊の中央にあり本尊ハ阿彌陀如來よりて
脇士ハ四天王よりハ韋駄天觀音を安置せり

禪堂

本堂
の左

にあり本尊より
大珠井を安す

齋堂

本堂の右にあり本尊
より緊那羅王を安す

鼓樓

禪堂の
前より有

浴室

高堂
の前

に
有山門

開山堂

客殿の
後より有

地藏堂

御靈牌殿の左にあり本尊
より地藏井を安置す

經藏

御位牌殿の左にあり
數卷の經文書を納む

藥師堂

地藏堂と禪堂との間にある本尊藥師如來ハ御丈四尺四寸の
立像にて百濟より來りたるものこそ昔東行寺時代の本尊なり
御靈牌殿 本堂の後よりあり御代の様
の御靈牌を安置し奉る

壽徳院殿 吉就公

泰桓院殿 吉元公

英雲院殿 重就公

靖恭院殿 齊房公

邦憲院殿 齊元公

其外御枝葉様御位牌あり

寺後山の禁より御墓所あり結構壯嚴あり

本堂 二重 屋根 二掲 額

大 推 寶 殿

本堂下の軒より掲る額
黄檗山 二代木 菴の筆

東 光 禪 寺

天王 殿前 二掲 額

天 王 殿

吉就公御真跡

本堂中の柱より掲る聯

黄檗山五代高泉之筆

纏拏菩薩の梵書圖案百萬人天皆受喜
不換法華の佛身自現信子孫永受勝依

同柱一掲る聯

海積山堆厓結家風真廣大
日來月往衲俗法喜永殷充

黃檗山三代即非の筆

山門二階一掲る額

山門前の軒一掲る額

解腕門

漢門一掲る額

溪園山

最勝園

高泉の筆

鼓樓の額

鼓樓

七世悦山の筆

山門の柱一掲る聯

法於常轉祝國語武荒野苑
祖道多忠立宗運名俗依苞

山門後の軒一掲る額

寺堂禪園

浴室

浴室一掲る額

此外扁額聯等數多
けれと之を略す

鉢多院 同所樓門の北に隣る東光寺の塔中ちり

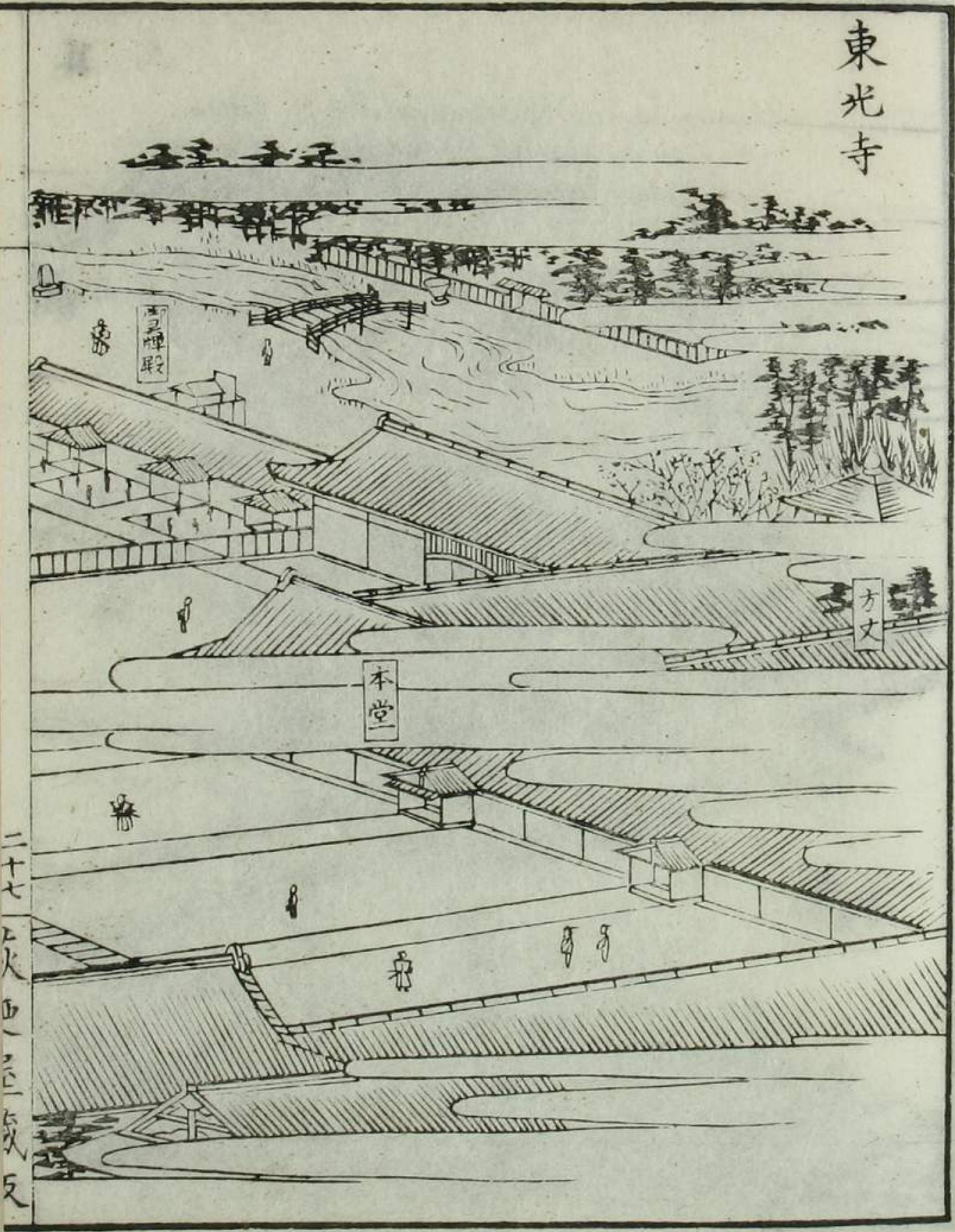
本尊聖観音ハ恵心僧都の作 國司主税念守仏を寄附せりと云 當寺もまゝ惠

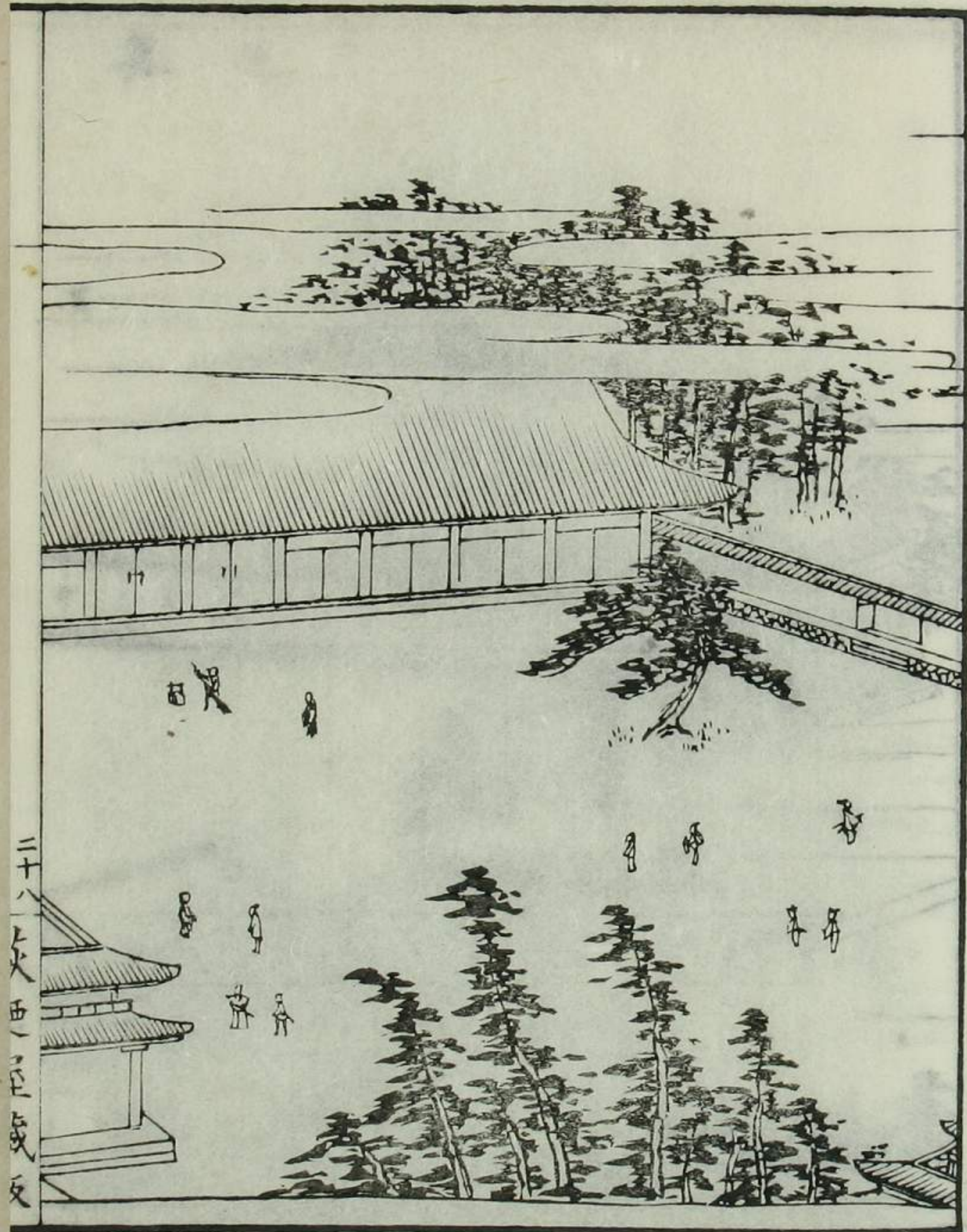
極を開山とす相傳ふとめ大津郡三見村にありて鉢多羅寺といへるを引て元祿九年當寺を建立す此鉢多羅寺といへるハむらゝ金峯權現の社坊に委しくハ金峰社の所よりる寺

泰法院 同所より東によりて一丁程山の傍にあり東光寺の末院よりて開山ハ惠極和尚なり

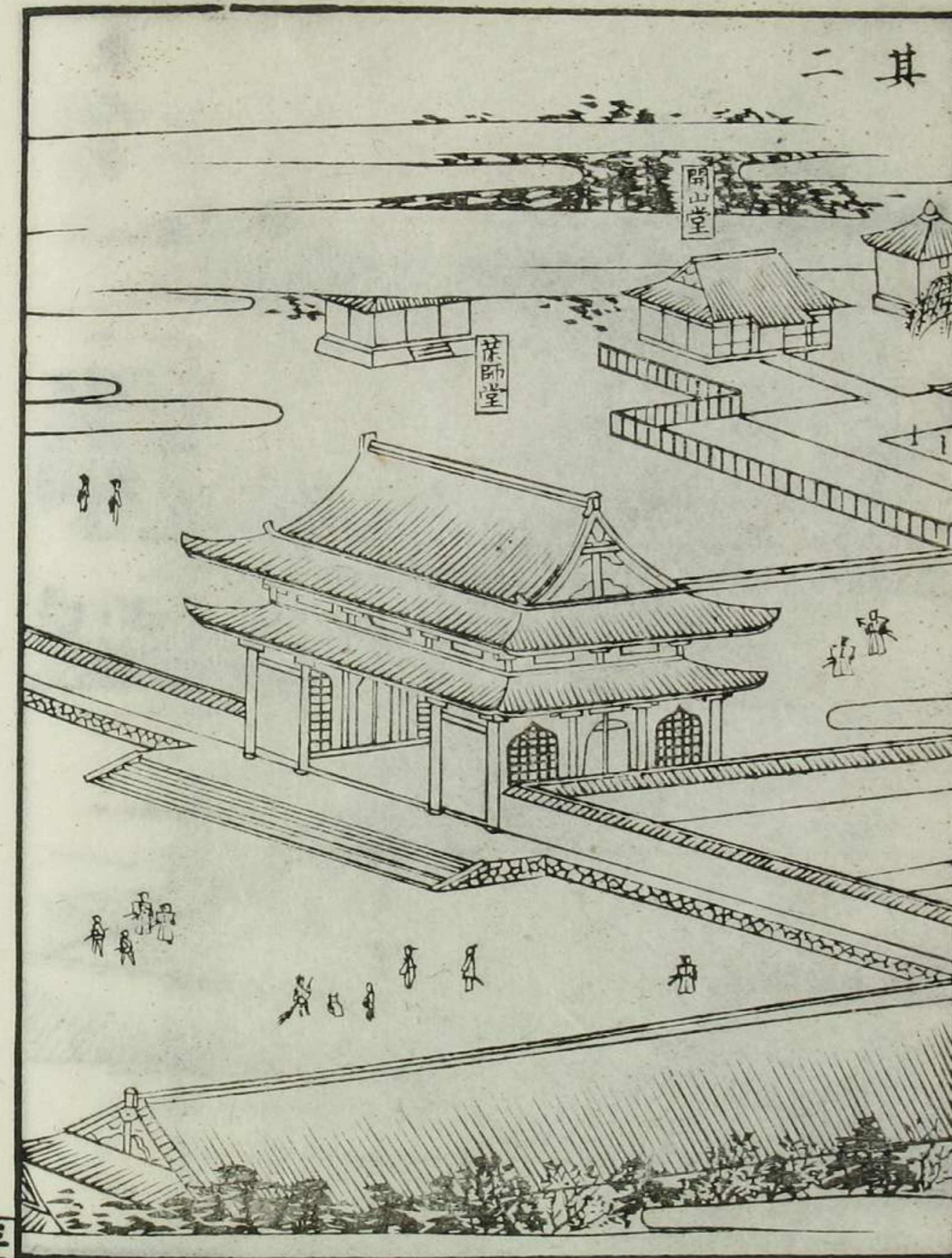
本尊釈迦如來ハ佛工増長が作りて寶曆年間の建立なり
秋葉堂

東光寺





二十
八
大
西
臣
反



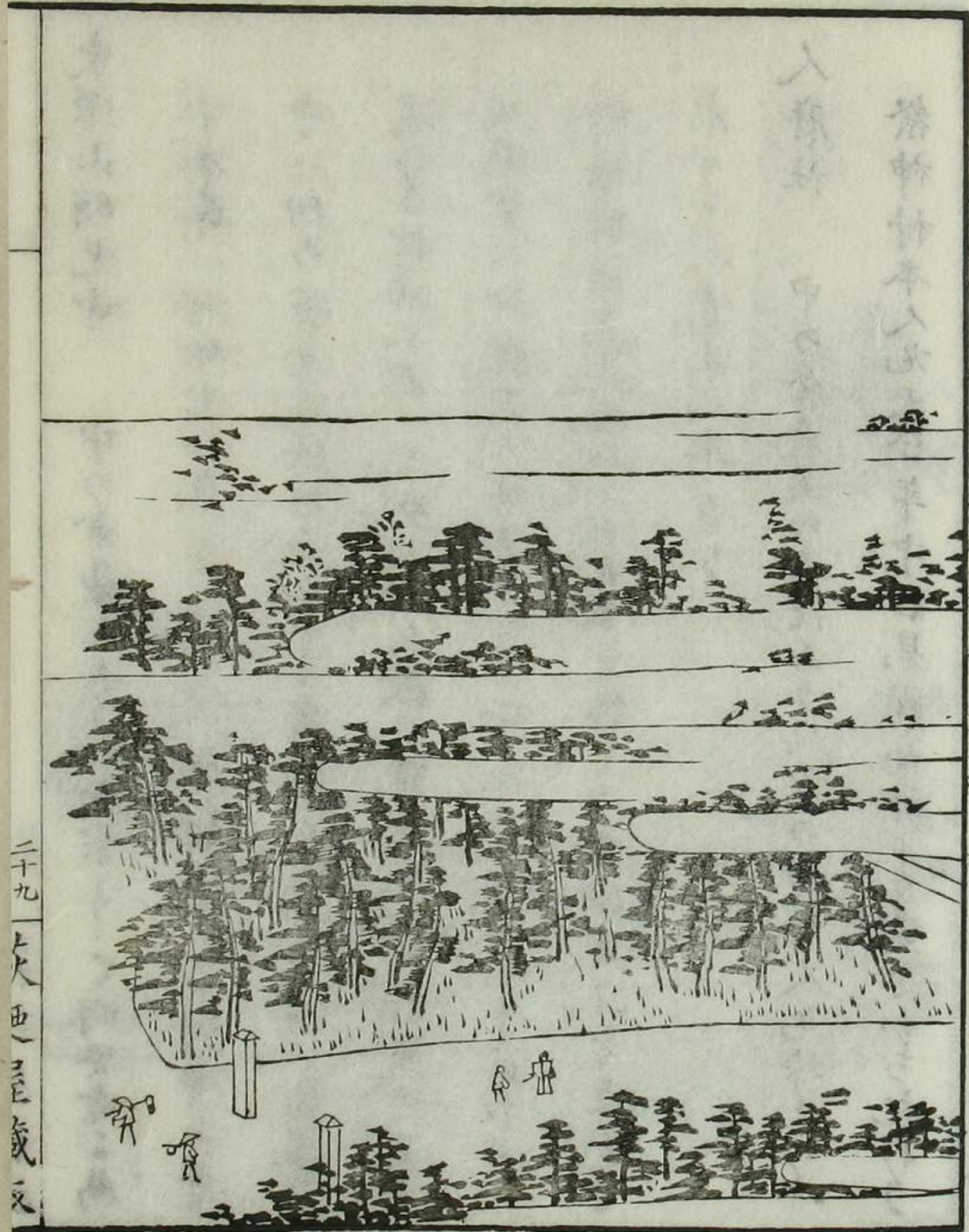
其二

關山堂

深師堂

十
八
大
西
臣
反

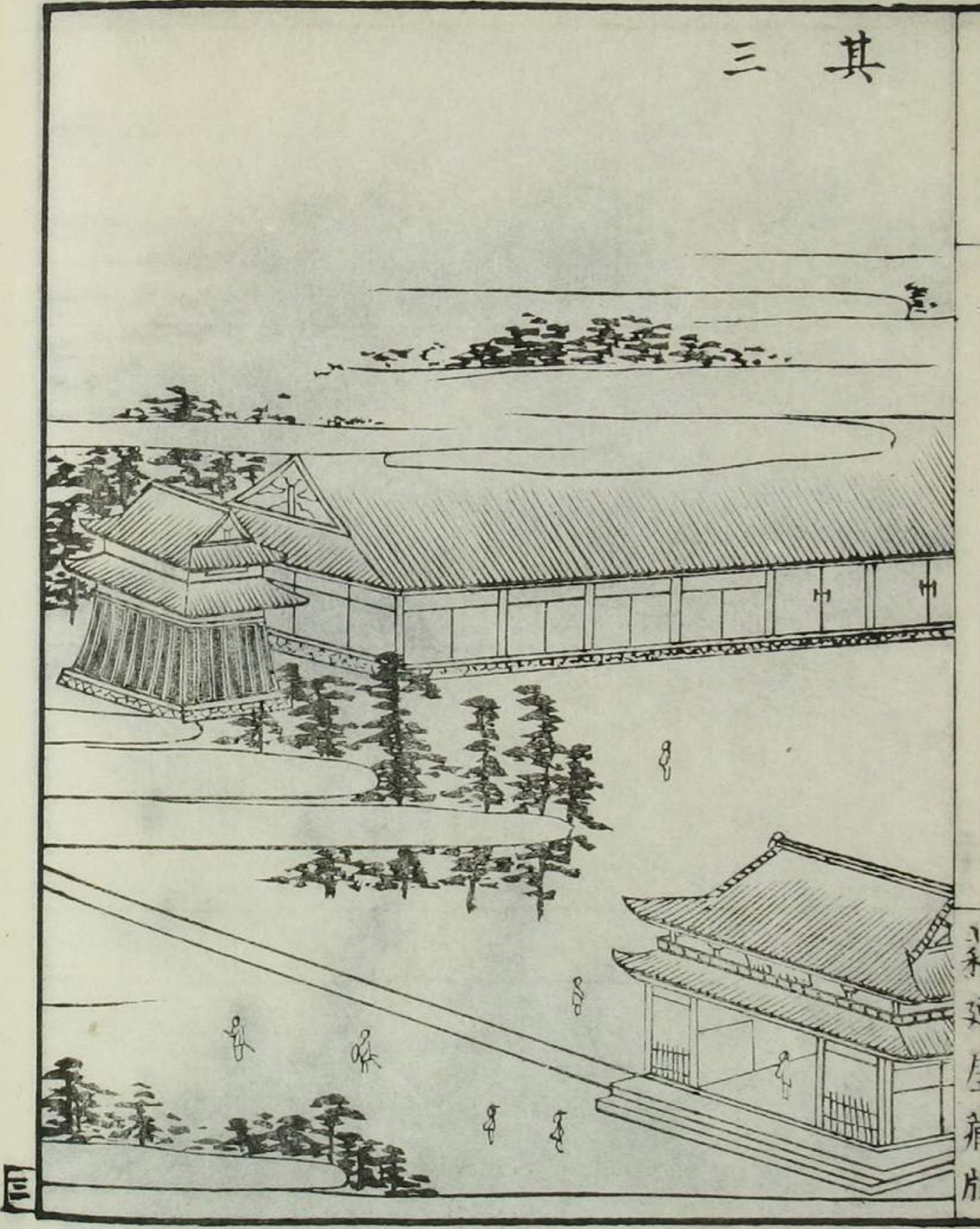
三



二十九 大西三蔵文

入新野中

其三



新野中

東源山明光寺

東源山明光寺 中の倉臺あり一向宗よりて明安寺より屬

す本尊ハ阿弥陀如来よりて開山ハ釋誓忍といふ相傳ハ當

寺ハ初め誓忍の隱居所よりて當所より小菴を結ひ朝暮を

送ける折柄不圖 天樹公鼓り嶽の麓茶碗屋へ御成りとき

此庵室に御腰をのけさせむい御休息所とす功より

御歸殿後直よ大木二十五本を賜より堂宇建立をそ絶さ

れり則寛永八年より

人麿社 中の倉東山の手にあり此前の坪を人丸坪といふ

祭神杵本人丸天正年中石見國高津より靈を分ち祀り

三

人丸社



三十一

例祭九月朔日二日あり

往還筋より五四丁より入る此處より扇落の瀧は行く道あり極めて難所なり又祭日ハ秋市中諸社のさだめけりて角力馬驅けることありて賑はるなり

唐人山 同所より良は高く聳へて松杉青く繁茂しる

山をのり往昔 天樹公朝鮮御征伐のときかの國の陶土師季

光シヤムクワン

字不詳或人云恐らくハ上官の謬りなり今大津郡深川村湯本は俊寛僧都の古墳といひ傳ふるものあり是則シヤムクワンの墳墓なり彼に住居せし所も年々の随ひ終ふ土人のいひよるるなり

の時御供へ来りりとを後御打入ありて鼓う嶽今茶碗屋の上を以唐

人山の禁は地をむひて第舎をまつらひ猶土器を造らせむ

あまうありに其功最殊勝して世よ名を顯す計りに

なりぬれふよりて茶碗師御細工人として御分持をも賜

たり則季光を山邑作之丞

今深川茶碗屋の初めなり

と号しシヤムクワンを

坂本高麗左衛門と改名させむ

中の倉茶碗屋

夫より以降御國産

の一色とちりて尤佳品の名を得たり則坂本山邑ともに連綿

して今猶繁昌すさて鼓う嶽を唐人山といひ傳へるハ外蕃

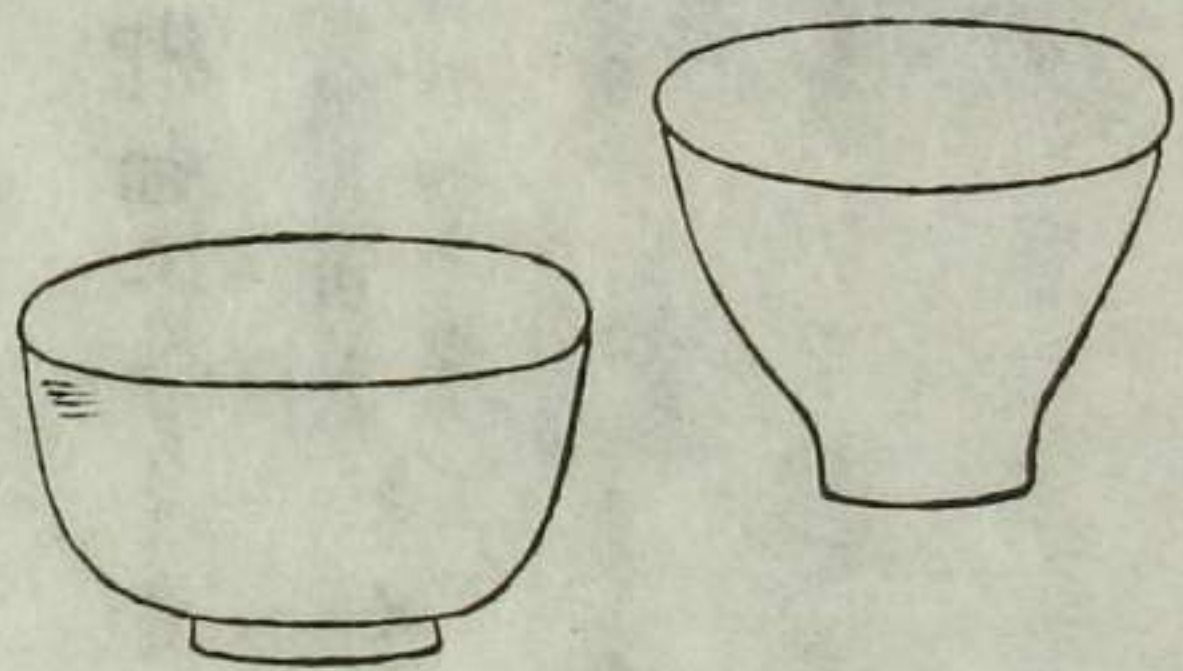
の人當所は住居せしよりの謬るるへ猶むくの名ふよん

まは高麗山或ハ朝鮮山といたふは

因よハ深川村まは阿武郡須佐村とよむ

高麗焼茶碗之圖

尾を萩焼といふ
後にも古松本も
いふ傳へり



かやうの焼ものを造り出せり尾を熊川と号す
よ一尾ハ高麗川焼ちりよヤ出所詳々なるす

大釜埵

同所よりまゝ北の方へ行て杉谷あり其往還の所

をいふ里老曰むく阿武郡叔藏當所よありて秋納のとき百

姓此所よ打よりて藏納せしその時數多の人ちれハ煩そ

とてかの大きゆる釜をわきて飯を調へしよまゝ或ハ

云昔ハ當所に鑄物司ありて此名残まうとを今も道の上の

山よ釜あらしめたり

金峯権現社

手水川埵の前を練雀口といふ此道より東の

山よ入りてあり此金峯権現といふ昔大同年中八百比丘とい

ふもの大和國金峰山より此地に勸請せし所は始め遷し奉る
 とき神体を舟よのせて小畑浦に着ぬ夫より七回り鳥越二
 瀬川を経て黒川へ出今の下向道より遷座し奉る 今二瀬川
 の下鳥越
の脇に權現原といふありこれ
 遷座のとき御休所なりとぞ その地今古權現と云さてその傍は八
 百比丘の屋鋪鍛冶やきといふありきといひり今も屋臺谷の
 坊杉の坊をいへる旧地ありて其名残りしきと云年曆詳
 くありねと金峯の民艸いと困窮して米穀不登産業頽敗
 よ及ひしより終に金峯の百姓を三見村に移されし其時
 此權現社二王宿坊をともにも三見に遷せしとぞ其後年

を経て其民古地を去るに公は訴へてむの金峰の地よか
 へり来りしき權現社をも先立て當所へ再興し奉る則
 二王の三見に残りおきたりしとぞ 今三見市二王橋門ともいふ然
 りし社坊あり今の東光寺
 塔頭鉢多院是なりとぞ 凡金峰の形勢四方大山の絶頂よて
 かくも風霜の烈しき所なり冬は更にもいそぐ酷暑と
 いへども哺時を過る時ハ冷氣凜々として肌寒く荒楞の
 三重をくぐりて水のけりかき水源ハ權現山の南割谷の東北
 より流れ出まといは猿の藪より湧出して終に扇落
 しの滝津瀬清らるに流連落つと後金峰に野火起りて

神社田祿の災あり此とき里人早く神殿を驅付神体をど
 り出奉り御馬を乗りむし尊像を馬に鎖りて
 神殿の柱に繋ぎとめしれと出奉ること叶は甲斐なく
 焼失しとて其尊像ハ古雅なるものよそ最も殊勝に
 按ふは熊毛郡岩城神社山門の二王の作古雅絶妙なり全
 く是と同作なりへは是飛驒の工とんとの彫刻なりと覺ゆ
 神像ハ圭冠をかぶり袖口狭き袍を着し差貫の如き袴を
 着けし御姿なり實は太古律義風俗見るよ足れり冠の形ハ
集古十種中よのせら所の應神天皇の御冠よ一もたしと云

峽に社を再建す夫より以来金峯の社地を古権現と云後
 まゝ里民夢想によりて櫻村の神社を再興は是則今の金
 峰権現社なり夫より岩々峽は小祠を建て是を中の社と
 せいふなり今手水川といへる名の残りとも社へ参詣する
 人の手洗所ありしよりの名なりと里老のいひ傳ふる所
 なり

八江菽名所圖画三之卷終

八江菽名所圖画三之卷終

